



編集後記

マルクス死後七〇年を記念する催しが、今年になつて世界各國で行われた。

まずマルクスの祖国ドイツ(ドイツ民主共和国)では、死後七十年を記念して「カール・マルクス記念の年」とドイツ統一社会黨は宣言し、各地で記念集會がおこなわれた。特にビーク大統領は演説を行い、マルクス理論の現代的意義を強調した。

イギリス——ロンドンにあるマルクスの墓は世界各國の諸團體からおくられた花輪でうずめられ、またロンドンのK・マルクス名稱圖書館主催で、イギリス共産黨書記長ハリ・ポリト氏の記念講座が、セント・パンクラス市の建物で行われた。

フランスでは「パンセ」誌主催でジョリオ・キュリー氏議長のもとに記念集會が開催され、また「パンセ」の四九號には記念論文を掲載している。

チエコ・スロヴァキアでは七〇年記念事業としてマルクス・エンゲルス全集を出版することを決定、ブルガリアでは首都ソフィアの人民劇場で記念集會が催され、ブルガリア科學アカデミー會長トド・パヴロフ氏が記念講演をおこなつた。ルーマニアの政治文獻出版社では五七萬部にのぼるルーマニア語のマルクス著作を出版した。

ソ同盟では、記念行事のことについては明かでないが、一九一七年の十月革命から一九五二年にいたる三五年間にマルクス文獻は一、六二五版、五、九六九萬五千都出版され、そのうち「共産黨宣言」と「資本論」の出版は最も多く、前者は五八ヶ國語で三〇五版、一、一六萬部、後者は一〇ヶ國語で一〇七版四四四萬六千部をかぞえている。

マルクス研究では世界的水準をいく日本でも今年の春から學界や大學で各種の記念行事が行われた。このささやかな記念號もすでに述べた世界各國のマルクス記念行事をむすぶ一環であることを附記しておきたい。

一九二四年(大正十三年)一月、わが經濟論叢はアダム・スミス生誕二百年を記念した。この記念號にならぶ神戸正雄、河田剛郎、河上肇、田島錦治等という大先輩の顔ぶれからみても、また總勢千四名という執筆陣容からみても、このマルクス記念號は甚だ貧弱にみえる。併し幸にもわれわれはいまアダム・スミスではなくて、カール・マルクスを記念しているのである。その意味でこの二つの記念號は直接比較することの出来ない時代の相違と學界の發展とをあらわしている。

マルクス經濟學は河上先生によつて日本の大學の中にも取入れられた。それは戦時中の學問の墮歴によつて非常にゆがめられたけれども、なお生残り、戦後には再び生命をとりもどして、經濟學の色んな専門分野にまで深く浸透して行つた。この記念號に發表されている諸論文は何れもマルクス經濟學の方法論を個々の専門分野の問題にまで取入れたものであるはずである。その意味でこの記念號はスミスの價值論、價格論、分配論、貿易論等々がやや外面的に論評されていたアダム・スミス記念號と異なる特色を持つている。經濟論叢の長い歴史の中で、ささやかではあるが、基礎のすわつたマルクスの記念碑がうち建てられたと言えよう。

一九五三年十月二十九日

(編集委員)